

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備						掲載ページ		
							177		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,362,918	千円	1,392,419	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。					
<b>活動計画</b>	指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーをクラブに派遣し、指導員に助言等を行います。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介し、指導員相互の交流や情報交換を促進します。他に、開設時間の標準化にも引き続き取り組みます。						
<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。						
<b>活動指標</b>	指標 <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】	
<b>活動指標</b>	18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合	97.9 %	向上	99.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質の向上を図ることが放課後児童クラブに対する様々なニーズへの対応につながることから、活動指標として設定しました。  (最終目標と最終年度) 100% (26年度)					順調	
<b>活動指標</b>	障害のある児童の受入	245 人	障害児の受入促進	283 人	やや遅れ	順調	
	研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ることが、受入が増加する障害のある子どもへの適切な対応につながることから、活動指標として設定しました。  (最終目標と最終年度)				遅れ		

【Check】評価(分析)			
<b>分析及び課題の整理</b>	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	指導員を対象にした研修においては、研修の受講だけでなく、受講後のフォローアップ効果を向上させるため、研修時のポイントをまとめた「研修だより」を発行しました。また、臨床心理士等の派遣も今年度で3年目を迎え、各クラブの実情に即した助言等を行うことができました。こうした取り組みの結果、障害のある子どもへの理解が進み、児童の受入が促進されていることから、活動の状況は順調としました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害のある子どもの受入に関しては、市に臨床心理士、アドバイザーという専門家を設置（雇用）し、クラブのニーズに応じて派遣して、指導員に助言等を行うことができることから、各クラブで専門職を設置する場合に比べて低コストで効率的な取り組みと考えています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーによる訪問指導等に引き続き取り組みます。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介するなど、指導員相互の情報交換を促進し、運営の質の底上げに努めます。さらに、放課後児童クラブアドバイザーをクラブだけでなく、学校にも派遣し、クラブ・学校相互の連携づくりに努めます。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							177		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		69,063	千円	69,758	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。						
<b>活動計画</b>	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。						<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績 (達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>		
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数	161 件	維持	154 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)							
	保育所等訪問支援事業の実施件数	未実施	増加	183 件		順調 やや遅れ 遅れ		
	保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	<b>「経済性」「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成25年10月より、給付サービスの一つである保育所等訪問支援を3つの児童発達支援センターで開始しました。保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業等による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	日中一時支援事業(放課後対策)の充実						掲載ページ		
							177		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		142,052	千円	107,182	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価					
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	当該事業は、市内に居住する障害児を障害サービス指定事業所等において、一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、障害児本人の能力及び適性に応じた日常生活または社会生活を営むことができるようにするとともに、障害児を日常的に介護している家族の負担を軽減することができます。				<b>活動実績</b>	放課後対策事業所については、平成24年4月から開始された公的サービス「放課後等デイサービス」事業所へ移行する傾向にあります		
<b>活動計画</b>	放課後対策については、放課後対策事業所の放課後等デイサービス事業所への移行を働きかけ、全体的にはサービス利用要望に対応できる事業実施を行います。				(参考) 1日受入定員 放課後対策 167人 (H26.3.31現在) 放課後等デイ 355人 計 522人				
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)		<b>前年度実績</b>	<b>目標</b>	<b>実績(達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>		
	日中一時支援事業(放課後対策)の受入定員数		430 人 / 日	330 人 / 日	522 人/日	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	本事業における受入定員数の増加により、利用待機者の減少につながるとともに、利用者の増加につながります。 (最終目標と最終年度) 平成26年度 330人/日				158.2 %				
						順調	<b>大変順調</b>		
(最終目標と最終年度)					やや遅れ 遅れ				

【Check】評価(分析)			
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	放課後対策(放課後デイサービスも含む)受入定員は前年度よりも増加し、順調に事業実施ができています。また、放課後対策事業所の放課後デイサービス事業所への移行も順調に進んでいます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は障害児の介護及び療育にノウハウを持つ障害福祉サービス事業所に委託しており、経済性・効率性は高いと考えています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
放課後対策事業所の放課後デイサービス事業所への移行と受入定員数の増加に努めます。

## 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

<b>事業名</b>	小学生ふうせんバレーボール大会						掲載ページ		
							177		
<b>コスト</b>	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な家庭を支援する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		3,250	千円	2,250	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害のある小学生と障害のない小学生で構成されたチームによる「小学生ふうせんバレーボール大会」を開催し、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進を図ります。							
<b>活動計画</b>	参加者数の増加につながるよう積極的に大会参加の呼びかけを行います。		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); font-weight: bold; margin-right: 5px;">活動実績</div> <p>参加者数の実績は下記のとおりです。 また、ふうせんバレーボールが本市発祥のスポーツであることを周知し、競技を普及するためのパンフレットを作成し、市内小中学校やスポーツ推進委員、障害者団体等に配布しました。</p> </div>						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） <small>（上段：指標名 下段：指標の考え方）</small> 大会参加者数 参加者数の増加が、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進につながることから指標として掲げました。 <small>（最終目標と最終年度）26年度 参加人数550人</small>		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】		
			417 人	維持	337 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
						大変順調	順調		
						順調	順調		
						やや遅れ	順調		
						遅れ	順調		
	<small>（最終目標と最終年度）</small>								

### 【Check】評価（分析）

<b>分析及び課題の整理</b>	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小学校での土曜授業が開始されたため、参加できない児童が増加し、参加チーム・参加者数ともに減少しました。 ふうせんバレーボールが本市発祥のスポーツであることを周知し、競技を普及するためのパンフレットを作成し、市内小中学校やスポーツ推進委員、障害者団体等に配布し、競技者の拡大の取り組みを行いました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	大会の開催にあたっては、多くのボランティアの協力を得るなど経済的・効率的な運営に努めています。

### 【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

児童が参加しやすい大会開催日の検討や、新たな参加者の開拓を行い、参加チーム・参加者数の拡大を図ります。
---